Peppolが輝かせる「主役」たち ～遠藤久税理士事務所、デジタルインボイスの「自分ごと」化～

2025年12月９日、デジタル庁は、遠藤久税理士事務所（福島県会津若松市）の遠藤久氏（公益社団法人 会津若松法人会 会長）との間で、同所におけるデジタルインボイスの実装について、意見交換を行いました。

まず、遠藤税理士から「デジタルインボイスには、令和4年12月のセミナーで話を聞いたときから関心があった」との話があり、「令和５年10月のインボイス制度開始直後から早速取り組んだ。福島県で『最速』のPeppolユーザーとなった」との話がありました。

さらに、遠藤税理士は「今回、会津若松、会津喜多方及び南会津の三つの法人会が合同でデジタルインボイスのセミナーを開催したが、想定以上に参加希望者が多かった」とし、「事業者の中でも、デジタルインボイスへの関心が確実に高まっていると確信した」との話がありました。

法人会事務局・遠藤久税理士（写真左後）と会津三法人会の皆様

デジタルインボイス関連のセミナーの様子（2025年12月9日　会津三法人会 合同開催）

そのうえで、デジタルインボイスの利用がさらに広がっていくためには「支払先に対して『デジタルインボイスで請求をしてくれ！』と、売上先に『デジタルインボイスで請求をする！』と、強く求めていくことが大切」と語っていました。